

# 第61回全国消防技術者会議の開催報告

## 消防研究センター

### 【会議概要】

平成25年10月24日(木)から25日(金)の2日間にわたり、第61回全国消防技術者会議が、東京都港区虎ノ門のニッショーホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、機器の開発等の成果を発表し、消防職員や消防団員をはじめとする消防関係者間での意見交換の場として、昭和28年より毎年開催されているものです。前回と同様、今回は消防関係者以外の方からも広く聴講者を募り、本年は全国より、2日間でのべ700人に及ぶ消防職員や消防関係者等の方が参加しました。

会議一日目の午前に、渡邊洋己 消防研究センター所長による開会の挨拶の後、特別講演として、「巨大地震時の火災リスクをいかに低減させるか」と題して、兵庫県立大学防災教育センター長 室崎益輝 教授からご講演いただきました(写真1)。その後、「平成25年度消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰」の表彰式が執り行われました。表彰式では、大石利雄 消防庁長官(写真2)によって式辞が述べられた後、受賞者に対して長官より表彰状が手渡されました。さらに、選考委員会委員長である亀井浅道 横浜国立大学客員教授による講評、次いで記念写真撮影が行われました。会議一日目の昼休みの時間を利用して、ロビーにおいて13件の受賞作品「消防防災機器等の開発・改良」の展示発表が行われました。会議一日目の午後に、消防庁長官表彰受賞作品「消防防災科学論文」及び「原因調査事例報告」の中からそれぞれ5件と8件の口頭発表が、「消防防災科学技術研究推進制度」の中から2件の口頭発表が行われました。

会議二日目に、19件の一般口頭発表「安全対策・機器開発改良」及び「原因調査」が行われました。また、会議二日目の昼休みに4件の一般展示発表が行われました。

### 【特別講演】

兵庫県立大学防災教育センター長 室崎益輝 教授による特別講演「巨大地震時の火災リスクをいかに低減させるか」では、これまでの大震災によって発生した火災の

研究成果から得られた防災対策について、ご講演をいただきました。巨大地震の火災リスクを明らかにするとともに、その低減方策について説明をいただきました。研究成果を基にした具体的な方策を交えてご説明いただき、防災に深く関わる消防関係者にとって興味深く有用な講演となりました。



写真1 室崎教授による特別講演



写真2 大石消防庁長官による式辞

### 【研究発表】

会議一日目の午後の前半のセッションで受賞作品の中から5件の「消防防災科学論文」の発表が行われました(写真3)。その中で、津波による車両火災に関する研究や微量のエタノール添加によるウォーターミスト

消火性能向上に関する研究に関心が集まっていました。いずれの発表においても実験結果を基に詳細な解析を行い、新しい手法や知見を提供する研究成果を得ました。また、「消防防災科学技術研究推進制度」で行われた2件の研究発表も行われました。両者は救急の現場及び危険物施設における新たな判定方法に関する研究で、実用化に向けて期待が高まる内容でした。後半のセッションでは同受賞作品として8件の「原因調査事例報告」に関する発表が行われました。ローソクが起因する火災事例や太陽光発電システムからの出火事例に関心が集まっていました。いずれの発表においても調査結果を基にした実証的な検証が行われ、科学的な考察を基にした現場活動や安全対策に有効な方策がまとめられていました。

会議二日目の午前のセッションで、一般研究発表「安全対策・機器開発改良」として8件の研究発表が行われました（発表者が災害対応のため一件の発表が取りやめになりました）。その中で消防ホースの新しい収納方法や東日本大震災において緊急援助隊が摂取した活動食に関する研究に注目が集まっていました。いずれの発表も現場活動の中から問題点を抽出し、その解決のために現場活動に役立つ創意工夫が見られました。会議二日目の午後のセッションで「原因調査」に関する11件の発表が行われました。その中で蟻が引き起こす電気火災やたばこの火種がアセチレンガスに引火した火災に関する発表に多くの方が関心を示していました。全ての発表において、科学的手法を取り入れた客観的な原因調査が行われていました。また、原因を解明する上で必要であるならば再現実験を実施し、説得のある実証的な調査結果が得られていました。

#### 【展示発表】

会議一日目及び二日目の昼休みを利用して展示発表が盛況のうちに行われました（写真4）。その中で、消防ホースにおける不意離脱防止結合器具の開発や消防ホース結合回転器具の考案など消防ホースに関する開発に多くの方が関心を持たれていました。全ての展示

発表において創意工夫が行われており、研究成果が現場活動に役立つことが期待されます。新規開発された現物が展示された発表の場合、参加者は機器の動きや利用方法その場で見て実感できることで、研究成果を具体的に理解でき、現場活動に生かし易くなると思われます。

次回の開催に関しましては、決定次第、消防研究センターのホームページ（<http://nrifd.fdma.go.jp/>）等によりご案内させていただく予定ですので、よろしくお願い申し上げます。

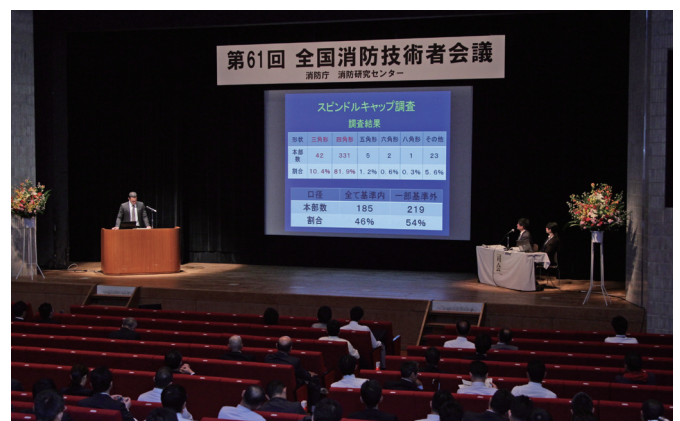


写真3 研究発表の様子

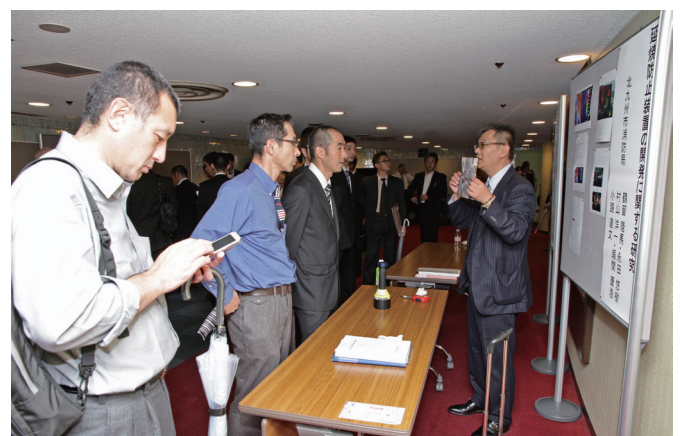


写真4 展示発表の様子

#### 問い合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画室  
TEL: 0422-44-8331 (代表)